

## 神奈川県立近代美術館新館新築工事

受賞機関 神奈川県総務部建築工事課

### はじめに

本事業は、日本で最初に建設された近代美術館として知られる神奈川県立近代美術館鎌倉館本館の老朽化、手狭になったことから、より充実した施設とする目的で計画された。当初は通常の公共事業として計画されていたが、神奈川県内の財政事情からPFI事業として計画を見直した。

### 事業概要

所在地：神奈川県三浦郡葉山町一色字三ヶ岡

建物概要：RC造（一部SRC造、一部S造）

地下2階、地上2階、

敷地面積 15,398m<sup>2</sup>

建築面積 2,881.87m<sup>2</sup>

延床面積 7,080.26m<sup>2</sup>

最高高さ 9.95m

工事期間：平成13年度～14年度

SPC構成企業：伊藤忠商事、戸田建設、ハマビステム  
センチュリーリーシングシステム

### 事業特徴

本事業は、民間資金等の活用による公共施設の整備等の促進に関する法律（PFI推進法）に基づき、民間事業者が新たに県立近代美術館を建設・所有し、維持管理業務・美術館支援業務・備品等の整備事業を遂行し、施設を県に賃貸するものであり、30年間運営した後には施設を公共側へ譲渡する（BOT方式）。また、既存の鎌倉館の維持管理業務も業務範囲となっている。



外部



展示室2

### 自然光を取り入れた美術館

美術館に展示するものは絵画、彫刻等様々な物がある。そのなかにおいて、代表的なものに絵画があるが、絵画は変色、劣化を避けるためになるべく紫外線の少ない、常温常湿の空間に展示保管されるのが常識である。よって、通常美術館の展示室は無窓で、外部の自然光をさえぎり、照明も極力紫外線をカットした照明器具が用いられる。しかし、当美術館においては4つある展示室のうち2つにトプライトがあり、積極的に自然光を取り入れた設計となっている。

自然光をよりよく効率よく取り入れるために1/10模型を制作し、トプライトからの自然光による展示室の明るさ及び視環境の検討、構造物、天井内造作物の影など、図面上での確認が難しいものの確認を行い、その結果を実際の建物に反映した。また、この美術館の展示室の人工照明による光環境をよりよいものにするために、工事期間中に展示室(1)展示室(3)の一部の1/1モックアップを作業所内に作成し、実際使用される空間を作成し、そのなかで、照明器具を試作し、照明点灯実験を繰り返し、この美術館の展示室に合った照明器具を製作し取り付けることができた。竣工にあたり、この建物が未長く、幼児から老人まで、近隣の方から外国の方まで訪れていただき、美術館周りのすばらしい自然と美術作品、建物を堪能していただければ幸いである。

受賞賛助会員 戸田建設(株)